

ひぜんとりい  
**肥前鳥居**

鳥栖市重要文化財（石造建造物）

鳥栖市教育委員会



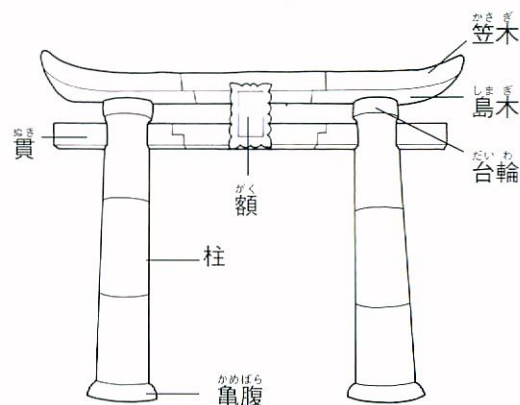
この鳥居は、村田八幡宮の二番鳥居で、表面が摩耗して銘文の一部がはげ落ちているものの、その内容から慶安2年(1649)に鍋島大和守茂範によって建立されたことが判ります。石材には天草地方のものが使用されています。なお、村田八幡宮は、江戸時代（貞享元年-1684年）以降、佐賀藩領養父郡の惣社として信仰された神社です。

所在地	鳥栖市村田町749番地（村田八幡宮境内）
管理者	村田町
指定年月日	昭和53年4月14日

## ■肥前鳥居

肥前鳥居は、肥前地方に興った独特の鳥居の形式で、慶長年間（1596～1615年）に特に造営が盛んだったことから、「慶長鳥居」ともいわれています。肥前鳥居の構造上の特徴は、天部の笠木と鳥木とが一体化し柱の貫とともに二本継ぎ・三本継ぎになっており、上部に台輪がある柱も三本継ぎで太く重厚で、笠木のかけ出し（先端にかけて反り返る部分）が大きな反りをみせてうえ外方にはね上がることです。また、柱の貫にはくさび楔が使われていません。

このような特徴ある構造になったのは、長大な石材が入手しがたいため三段継ぎにしたとする説、労力を分散・分業するための工夫、石材の接合・連結することによる審美性を求めた、などの諸説があります。



## ■轟木町日子神社の肥前鳥居と肥前狛犬

肥前鳥居は、市内では旧佐賀鍋島藩領に2基建立されており、もう1基は轟木町日子神社にあります。轟木町日子神社は、元は天満宮・八幡宮の神社でしたが、慶長2年(1597)鍋島直茂公によって豊前国英彦山権現から勧請され、現在にいたっています。

この神社の一番鳥居は、村田八幡宮のものと同様、典型的な肥前鳥居の形態をとります。表面は風化が進んでいますが、柱に元禄13年(1700)寄進の銘があり、建造年代を知ることができます。



日子神社の肥前鳥居

また、この神社には肥前鳥居と同様、肥前地域独特の特徴をもつ肥前狛犬があります。その特徴は、小形で容姿は静的であり彫りは簡素で素朴なことです。前面と側面を浅く彫り、全体的に丸彫りに彫整されています。狛犬が乗る台座は後世のもので、狛犬が移動された際に置かれたものと思われる。銘はなく、その製造年は明らかではありません。



肥前狛犬（左は西側に、右は東側に祀られている）